

ともに創り、 ともに生きる、 能登町のミライ

町民ワークショップ

第1回：8月1日（金）18:00～20:00

第2回：8月20日（水）18:00～20:00

10～80代まで幅広い世代の方々に
ご参加いただきました

第1回は、能登町の「未来」を考えるシートをもとに、参加者と能登町の「これから」をみんなで書き出し、話し合いました。参加者個人の3年後、10年後の姿とともに、能登町がどんな姿になっていてほしいかを考える時間となりました。

（4つのグループに分かれ実施、それぞれ以下の通り）

3年後

関係人口増加計画（観光客・古民家）

復興計画が進捗して
これまでの生活が戻っている

今より若い人は減っているかも
残った人たちが活躍
仮設→災害復興住宅

新しい建物が増える
観光客が増え、
町に新たな賑わいが生まれる

復興が進んでいる
新しいコミュニティができる

より子供が住みやすい町へ
復興が進み、道路が走りやすい

移住者を交えた定住人口の確保で
町の機能が維持されている

10年後

日本の中で地域創生のモデルケースになっている
誰もが生き生きと楽しく過ごしている

一人一人が関係する人口と深く
関わりを継続し、複数拠点、復興

家が増えている
空き地が減っている

海外から視察でくるようなサステナブルな町
（持続可能な能登町）

伝統文化・伝統芸能をしっかり
引き継いで未来へ伝えていく
子供達の住みたい町へ

確かに人は減ったけど能登町が好きな人が
たくさんいてテクノロジーを使いながら
心豊かな暮らしを送れる

- ・ブーメラン人材が役割を持って賑やかに暮らすまち
- ・協創、なかまづくり
- ・人と人のつながり
- ・こわす→つくる→まもる！

※第1回ワークショップ内容一部抜粋



交流 能登ならではの交流の場所をつくる

- ・交流の“場所”をつくる
- ・地域の人と地域外の人が交流できる場所
- ・年齢や地区に関わらず集まれる
- ・地域の人が交流できる場づくり
- ・地域の人が交流できるイベントがある
- ・困った時に助け合いの関係が大切
- ・地域のリーダーづくり
- ・簡易宿舍作り（町外者向け）、交流できる宿
- ・地域に根ざした活動が必要

暮らし

変化や外部からの力を柔軟に受け入れる力をつける。

- ・災害に強いまちづくり
- ・防災教育の拠点になるように整備
- ・子どもが安心してあそべる町
- ・子どもたちの知るチャンスを増やす
- ・子どもたちが帰ってきやすい
- ・育児がしやすい
- ・商工会員・商店街がいきいきした町
- ・安心して住める町
- ・夜でも安全な町
- ・道路復旧
- ・路線バスの拡充
- ・持続可能な公共交通
- ・住宅の再建
- ・空き家の発掘・活用

なりわい 地域の台所を増やす

- ・多様な働き方ができるまち
- ・里山里海を活かした産業
- ・地域資源を活かした稼げる町に
- ・女性も働きやすいまち
- ・チャレンジする人を応援する文化のある町
- ・能登らしい産業（イカ、マキリ、食、神輿、林業）を残したい
- ・創業企業を応援する町
- ・起業家があつまる町
- ・顔の見える連携
- ・地域の食で賑わう
- ・家族以外の3世代交流
- ・孤立しないための交流の場
- ・地域の台所（寄り合い）
- ・活用しやすい制度（助成金等）



人づくり 22世紀を生き抜く～パパママじじばばニッコニコ♡～

子育て：パパママじじばばの負担を減らす！！→心にゆとり、一家ニッコニコ
 学び・気づき：「成績」「場所」にとらわれない、町立の高校！！、親も学ぶ必要性
 まつり：楽しくないところにも目を向ける！（体力、金、人手、ヨバレ…）
 世代間交流：機会・場所を創造、能登町内の交流も促進
 地元愛：社会とのかかわり作りとしての高校生のアルバイト、
 問題と本気で向き合う機会&外へ伝える姿勢